



	・	マ	シ	ヤ	ー	ル	南	部	政	府	副	大	統	領	と	の	会
	・	J	I	C	A	ナ	イ	ル	川	河	川	港	事	業	視	察	談
七	月	十	七	日	(	閣	僚	と	の	懇	談	夕	食	会			
	・	日	本	国	際	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	セ	ン	タ	ー	事	業
	・	ジ	ュ	バ	発	国	立	ン	ロ	ビ	着						
	・	ナ	イ	口	ビ	環	境	公	園	視	察	大	臣	兼	財	務	大
	・	ミ	チ	ユ	キ	環	境	鉦	物	資	源	大	臣	兼	財	務	大
	・	と	の	会	談												代
	・	ム	シ	ョ	カ	副	大	統	領	と	の	会	談				
	・	ム	ダ	バ	デ	ィ	副	首	相	と	の	主	要	閣	僚	等	と
	・	タ	食	会													の
七	月	十	八	日	(	金	)										
	・	ム	ダ	バ	デ	ィ	副	首	相	と	の	会	談				
	・	キ	バ	キ	大	統	領	ミ	リ	ウ	水	力	発	電	所	視	察
	・	ソ	ン	ド	ウ	・	ブ	オ	首	相	と	の	会	談			
	・	サ	ー	デ	ィ	ン	ガ	発	ダ	ル	工	ス	サ	ラ	ー	ム	着
	・	オ	ナ	イ	ロ	ビ	(	土	)								
七	月	十	九	日	(	土	)										
	・	ソ	コ	イ	ネ	小	学	校	訪	問							
	・	J	I	C	A	給	水	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	視	察		
	・	カ	ル	メ	・	ザ	ン	ジ	バ	ル	大	統	領	と	の	会	談
	・	ム	ク	ロ	財	務	経	済	大	臣	主	催	懇	夕	食	会	
	・	ダ	ル	エ	ス	サ	ラ	ー	ム	発	(	機	中	泊	)		
七	月	二	十	日	(	日	)										
	・	パ	リ	着	(	ア	ム	ス	テ	ル	ダ	ム	経	由	)		
七	月	二	十	日	(	日	)										
	・	ド	ウ	リ	・	ジ	ヤ	カ	国	民	議	会	議	員	と	の	会
	・	パ	リ	着	(	機	中	泊	)								
七	月	二	十	日	(	火	)										
	・	東	京	着													
一	本	と	議	員	は	、	今	回	の	海	外	派	遣	を	よ	り	実
の	在	京	大	使	め	、	出	発	に	先	立	ち	、	ア	フ	リ	力
を	取	下	取	し	、	見	そ	れ	ぞ	れ	各	国	概	概	況	に	つ
の	取	下	取	、	意	要	交	を	の	行	各	。	視	視	察	に	つ
概	下	取	、	各	国	要	入	と	の	会	談	。	び	察	に	つ	
二	要	取	を	報	告	す	共	和	国	の	明	。そ					
(	一	国	内	情	勢		和	国		の	明	。そ					

最らバ。北、に民内題治一す。難の二に意たがだ議。先の手サ拶  
 カか、た南し)国は問自一立。と兵、だ合れ員ま、たに年選、挨  
 リトリい、立Pりに一、独。平民亡ま平さ要いめし談近表でら。十五名。ル  
 フブよ築て成Cわん統せ二・。和系死い和始連がた止会。代こかた。百五計あシ  
 アジにを經にN加ダ北さ、離。のブが、に開国勢の中のとスそ長し。百、でバ  
 るエー盤を年(が一南足が分。ルラ人が年がで情こをとし。一。団励談四名制て  
 すとタ基戦五党)スは発たが。一ア万る六動州、、察長問ユる野激会員二院ベ  
 接スデの内議M、一をし部。フ、十れ。活ルどお視議訪はい矢をの議各二す  
 とリ一権北。会Lし第府用南る。ル降二さ。持一ななル会を会て、手と(らのに  
 国ギク政南二民Pかの政採、あダ以約と二維ふる。一議會協れい選長会か)提。会  
 かイ血がるが国Sしそ部をで。る年民た、和ルする。フ民協同行表議議州名前る議、  
 九に無)た)る(。、南度票とす三住じた平ダ死亡ある。国一、をを代会民五二をい  
 を年の領わAい動たりり制投こ置。系生まる北死でダル力い力式は議国十一挙てダ古  
 困六年統にP率運れあよ二民た位。力が。よ、がとたヒツ伴に呈団民、二バ選れ一に  
 周五九大余Cが放さがに国住れに二リ民いに日名こい一サに興贈員国は(一総さス目  
 、九八現年(領解立案A一るさ部。フ難な連八七るてタン普及振の議ル会会ザの命「  
 は一九(十意統民樹懸Pるれ残西るアのい国月てあし、ダ普のル、ヒ議議ブ回任、  
 ン、一将二合大人がのCすさが、あり人て、七けで定は一のその後一ン評才次りは  
 一、准、平ルン府つ。与施性はでよ万れし年受定予団ス一等ボたタダ表と、よ長  
 一、国しルた和ーダ政二る付実能二題に十さ立今を安は員、力成一ベ)一代員はに議  
 スの立一ま括シ一上あをに可第問擊五決成、擊不団議ちッ養力述二ス州議員領同フ、  
 大独シ。包バス統政で権年る。民攻百解がが攻に員立サのッを(との議統アも決一



助技外がし具シえだダの部奪開。謝達テた政一力、し人まにの職崩てとの字提た  
 援、国位望り得答ん、領南たをのた感伝元。遂日の府分しとだ治す、定臣きな平を約  
 のはの学要よ習と臨現統、し肢ンせるの地をに月政も。Pん政らが安大では和施を  
 く今力（をらの）に実大。し待扱ダ寄す意、をに月政も。Pん政らが安大では和施を  
 多の働マ現か術る談平るた。期期選一を対謝は。談展年六反北たC結、ずるの  
 も中労口実国技え会和すべをもの。ス待にる長。会発九、は南っNをりをめ家  
 最だ、プの貴な伝ず北対述成援府等期力す団のて八がン、作、定あ点求国務放壁ダの協  
 でたてィ」「度なら南に旨達成支政興に尽対野とし九たダしをめ協で焦を、外を完一挙の  
 まっしデ練、高Aわ「平」一のン振力のに矢。首と一し一始元たるのの任りに白はス選ル  
 れ真と「訓は。Cか、和る統国ダ業協で理、。党家。意ス終ののすも題責あ。三年空平はなド  
 こ長」、業長いIかし、すの他一農のま総後だ党国る合、に題進とな問明で。三の和A平億  
 は成いに職団早Jも表ど価と、ス、Aれ田談んマ洋えに後い問前内容的ル説聞。後。P公二  
 本済ための野が、にをな評部で、後Cこ福会臨ン西覚遣以争もの内法一る未。一たC、も  
 日経いたル矢方は後意置限南のはたI、こ福会臨ン西覚遣以争もの内法一る未。一たC、も  
 。、願るべ、た件直謝措大「た追べJに後お見・「意のたと合P等追ル対前べ「デ問が国問  
 うが力すレけし、の追し平最、け訴述る長たな会ィ、敬ムし族平C護訴ダには述、一訪たが年  
 願た協却）受を望訴対和をは設のとす団べ。者デら変一挫部和、保のCは犯訴」長、今あ。の  
 をきに脱るを案要、にの力領をC」対野述た記八か大チ頓たルはのCは犯訴」長、今あ。の  
 とて成らきれ提のた領ル努統金Cだに矢をし、のマ首、術でれ一党由Cと争のだ団がでも半  
 これ養かでこなムま統一な大基Iの画、葉頼局）党に技一さフマ自Iこ戦領の野たい摘あ後  
 るさ者存得。的テ。大フ撃同支援。も計た言依ピ五同本とタ残ルンと、う。統も矢っ思指で、  
 れを術依取た体。大フ撃同支援。も計た言依ピ五同本とタ残ルンと、う。統も矢っ思指で、

る。と在しち、あの貴国。に一放のし。内刻I対、い題力品C、对党府、。向さ須あ  
き。行潜力た旨が内で「た旨、善がを先ばべ。紀もた治まに、に医Iぐにの、一し、たが要  
で。履に努者」性国点、し。案あ我矢も旨。世上か、た問た帰ト前をそべ越示を機をこも必  
受。の等に若い能、のは動い。提では。て。「駿良果べ域のン半応、すりを念危果る請  
享。た任源化やた可がそ員感た。御き社会いと。し、常に結述地あ民テ年対とは乗思懸の結得要  
を。べ責資密性しいう。議にち。なべ社しはし。し、常のと工も難や二のM回を意にこいを力  
当。述明。緊女にし思る山え立。御き社会いと。し、常に結述地あ民テ年対とは乗思懸の結得要  
配。旨説る係はうらとあ松考役。なべ社しはし。し、常のと工も難や二のM回を意にこいを力  
の。」とす関後よばるで、るに。々す際ほ見ほ談関は非議」ビで避布「へL今機い止「良者協  
和。る定表の今るすが要旨け和。様。決。国。て。識。て。会。に。今。て。協。た。ア。地。、。毛。、。官。P。危。強。停。、。て。解。る  
平。す。安。を。本。「。え。は。上。必。」。か。平。解。し。る。っ。の。追。、。れ。と。し。の。適。が。に。た。高。S。た。て。の。の。は。し。理。す  
が。待。の。意。日。、。合。に。に。が。う。び。の。け。、。で。す。た。す。作。と。訴。が。ら。領。を。辺。業。る。本。ま。府。る。っ。し。と。資。長。決。に。対  
民。期。家。敬。と。は。め。ん。更。力。思。呼。ん。け。、。で。す。た。す。作。と。訴。が。ら。領。を。辺。業。る。本。ま。府。る。っ。し。と。資。長。決。に。対  
国。を。国。に。ん。員。高。ダ。も。努。と。を。ダ。受。自。た。を。に。一。大。C。き。が。大。決。線。、。て。、。た。の。求。が。団。だ。や。野。ム。社。府  
く。組。「。え。ダ。議。、。一。性。の。い。平。一。を。は。も。割。会。ビ。務。C。て。方。て。の。界。れ。っ。べ。し。名。を。立。、。き。助。矢。ズ。際。政  
早。取。、。考。一。谷。し。ス。産。身。き。和。ス。た。れ。題。を。役。社。口。外。I。れ。生。い。と。境。採。な。述。請。二。涉。対。解。べ。援。、。リ。国。本  
も。の。は。な。ス。中。流。「。生。自。大。ら。に。べ。こ。問。争。も。際。ン。ル。、。ま。先。つ。き。ん。が。く。と。要。た。交。の。和。す。の。し。ナ。く。日  
一。党。議。設。め。旨。に。員。業。国。割。点。と。れ。首。る。は。日。や。一。ア。臣。き。だ。題。る。一。石。大。る。援。さ。と。C。機。前。か。に。シ。幅。が  
、。原。建。秘。」。い。議。農。と。役。観。と。ぞ。党。す。義。、。A。S。、。六。同。に。状。C。を。北。、。よ。て。の。訴。C。る。こ。し。外。こ。た。い。あ  
で。う。藤。う。を。い。互。山。定。の。の。長。れ。同。謝。主。ず。P。、。六。同。に。状。C。を。北。、。よ。て。の。訴。C。る。こ。し。外。こ。た。い。あ  
の。よ。い。性。た。が。舟。る。安。党。益。団。そ。感。国。さ。C。い。紛。な。C。応。南。て。が。し。等。に。I。す。が。と。諸。し。な。で



人がし。展とた青談の三、G卒げ地ので用度のーい、れ、い定等港。力諸の物松大  
五化をた発すめの会。々ら接N、上い度下雇度スとしてこ来めて決争空だ産側後動では  
々体位えの示求で、た人か溶、いをな程の。談福、るし。以始っ遣戦、題生西掘生こス  
我具順答ンを階おれと年やて行果た円木はた会幸ががとた立をな派る路問業、採野ソン  
。層先とダ意援助段なわ興六築いを成持百やられの『るな会べ成修にのた道な農たやや。ラ  
だ一優」一謝支た。行復建つ成のを八人からとはいつ国述の改話隊わ、実、ま用活たバ  
成、一優」一謝支た。行復建つ成のを八人からとはいつ国述の改話隊わ、実、ま用活たバ  
賛でてた南献てでし見察国二る。に育ど職当る実せ領でてにのと府の世衛にせず切り。使生べの  
大といいが貰い認約会視るがあ夕導るがもたる識大査論幸日う部バ変の十能等てあ品民と成  
はこつ願援のつ確を者業よAで一指導るがもたる識大査論幸日う部バ変の十能等てあ品民と成  
件るにえ支Aにが討記事にCのユとを九者が再府のて民たと「ジで域はも管作要学、る経  
のす業伝業C護全検る練成Iもピ練職の働傍人を政々い国しば、は々地ン道田耕必化がいと  
流有事お農I保安のよ訓育Jるン訓な主労路の義部我つが問れはに等ルダ鉄水でがる置で題  
交共のに、Jの、遣に業者、すコらた戸築、ま意南「に立訪き領A画一ーぶや鉄水でがる置で題  
間を問方は、物は派局職術し施やが新、建状まつル、』成回で統C計フス結備や導おの生境  
会題年当臣て動長のピA技指実道ながでや現た持一ら築の今が大I水ル南を整鋤術にりを環  
議問三、大し生団隊レC、目り水得割方とうっのヤか構平で援副J給ダ。北ラだ技掘ま題「  
「り後け同と野野力テIはをた、を八一こい座障シ長の和識応同に、る南フまめ採た問、  
、な今つ、る、矢協元J業上わ備力約。るとに保マ団会は意の、特発たす、ンはた油水には  
はに。りたすに、外地)事向に整協のるあ金力会)野社で題杯し、開ま謝リイでの石な息員  
長核むかま資もで海、九本計間両の生いが賃気社十矢いン問一対本市。感よのこ上の大生議  
団が進っにとの年後(生年車O業て区低無や(高ダう精に日都るにに等こ向国巨の山



議の答、基ナ備多性部。一、に内教南はやし修  
 は山るも旨、活白整が用南たVパじ生、ンや後化。研  
 て舟あの」生がを断有るえJの通修はダ関了速るな。  
 い、は質う 視緊C道の川対か一とを研設一機終迅あ的る。  
 つ旨地良思 業域Iけ路河にうタ所営の施ス連業ので欲れ  
 に」発、と 事地J付道る援がン務運民。に国事給題意さ  
 応い開しる 港郊、取るけ支させ 官場元あ六在る品の指期  
 対た未供き 川近て、よお備きア 務工、で〇〇現い部後目が  
 のしな提で 河・ししにに整大イ 弁備めの〇、て、今を果  
 へ援助を力 川内と設雨流ラのテ 等整たも二れしがが得成  
 題支広術協 ル市環建や物フ待ン 高車のる、さ理る善修の  
 問り、技に イバーを争、ン期ラ察 民動援すが建修い改術後  
 り限ははり ナユの橋紛はイ、ボ視難 自支育た再にての技今  
 まるに本く Aジ」棧。でのの 際業連、興教れで主しト度、国  
 たきン日づ C「査にるン国府国 事国 下復をさ同を指ス高り  
 水でダ。境 I、調岸あダが政本 )、のび術壊共両目コでお共  
 、も一い環 Jは画川で一我両日Cは約及技破と車を達学てア況  
 が側スなる )業計ののス、一 )業契還備部会の営調大っ二概  
 い会「がす )業計ののス、一 )業契還備部会の営調大っ二概  
 し議、力給。一事備川もるく統二 )業契還備部会の営調大っ二概  
 難々は術自た(十本整ルたす高び十 )業契還備部会の営調大っ二概  
 変我員技をえ( 盤イし発は及( 本ナ民両で評政主高しも育ケ )二  
 一ケいや支国等、昨、じそキ年





業大重と活強に、談が席、をべと修か、題対山議つ技問題十たに地原間ヶ省つ  
 林番に題生ら進款れ会民D出た力述こ改生が問ら松いへのて問をし族替藤国、のに  
 「一常問民か推借触お市Aがま電旨た港限る境が、高考本え森性望家代、二はス」  
 、で非境国。裁の円てな。アC僚。、「あバ最大の環なでのを日らの要要千、たの員ラ性  
 は上で環ばた総画、い。だ。ニI閣たがい。がンをとつ々をそ順ン準とマの」約た。ア谷ブ可  
 員る題「れべ社計につたんケTのっ件深力モ力持種言。先ラ水ス。全決のした二中ッの  
 議守問、め述公電もにめ臨から。名が案慨尽、協をの助た優バ高ネた保解住達えケ、ト力  
 谷を境は詰れ力発と題求に見かた五なウ感御日の心アとべもの最ジベ境な移に移に答つ旨界協  
 中然環員きぞ電熱と問を見乱してつりての昨日の心アとべもの最ジベ境な移に移に答つ旨界協  
 、自、議突れア地す壊方会谈争心しにミめ生た日いいケ協旨8長世をと「円不結」をい「本  
 」か存松は、ケリをの対記の後、成ウは先ま、強やの」G成、境」の「うる源た、日  
 い豊共、ス旨、力討ムなのと挙り相がドと野。がも題府いは済際環だがで、いす資りれつ  
 た、の旨ン」はル検ダ急局領選お首存在ソこ矢るたに問政し題経る。案員上はと決いわ触持  
 しは間」ラる長才の用早ビ統「て副存ソた「いし電化本ま問がたい一議た領る解な関にを  
 力と人うバが団たき漑のレ大、しとのたっ、て定発浄日望境国当たたも山し統めりにに情術  
 努こと思のな野っ向灌側テキは戻下アし至はし決熱の、が環貴にいの舟明大求満限的事技  
 なる然とつ矢あ前川府元バ長り閣二駈に領知議地川もと「、決願る、説同を円「体力一  
 化守自る長に、が、ナ政地キ団取領ヶ経る統承閣。ビてこ、り解用たてに、き等、主電ギ  
 強を。な成定た請てタア、)野を統、をす大くをい口いるはあ題活当い民る退供はにのル  
 携山だに済安ま要いつよケの後五矢生活大れ断給。同よ画たいナに処議題つ術題につ住こち提員係アネ  
 連や切要経のいつよケの後五矢生活大れ断給。同よ画たいナに処議題つ術題につ住こち提員係アネ



のイ 司か来中年。リ コダ均況一徒。 にア食お 基。水経んこ執 察口つと材差  
 とラ 。 のル以の今たフ。 ソ都平状ボ生た。 離等、て 営たのの組る算 視蛇かた資に  
 ことた 。 自バ立定、したア。 らた首り学一られ の一反面し の察か事取水の予。 を、良れ、間  
 るッた え 独ジ独安り任たあれ、た就力から の一依存。 の察か事取水の予。 を、良れ、間  
 あホ答 と、年のとあ就しでさは当、ッ長べ 分ゾる依る。 の察か事取水の予。 を、良れ、間  
 でにと ら、年のとあ就しでさは当、ッ長べ 分ゾる依る。 の察か事取水の予。 を、良れ、間  
 人間」 と、年のとあ就しでさは当、ッ長べ 分ゾる依る。 の察か事取水の予。 を、良れ、間  
 友のる 一島六の国議をのり金一後、矢辞ト約一し輸れ供事一めう全騰な領工をめれ期積  
 のとす 二る九力護U援国よ資の下察、謝ク路ビ有のさ水画、たいは高と統水見飲こ二見  
 真私意 ガす一り庇A支ルにの校き視れらエ空、をら摘る計来たとに材題大給意がが第の  
 、と同国 ン有。フ民が政デ力こ学引。わかジらで源か指よ給以っ成め資課ル期に水案、下  
 は使に和 タをるア難領財モ協。小に行長口か島資外がに供年か醸た、がバ一ちい懸だ現  
 と大案共 土権あ部の統一般A金た象下あが校プ土ぶ光域性A水四なののり調整ジ第たしのと  
 こと提合 本治で南大大一D資し対以で式校水本か観を弱Cの六が識そお調ン「婦い年。算  
 た生御連 、自国東最テがO償問の名の呈同給、浮の分脆I域九績意、てのザ、主お長た予  
 れ先のア は、政和、カエ国、無訪ム九も贈、Aはに指部の脆I域九績意、てのザ、主お長た予  
 さ野と二 ア行共しリウがで、を一十るの後Cル洋屈大造、市、収支かさ画メか域けれく当  
 を矢るザ況ニ、合定フク我がで、を一十るの後Cル洋屈大造、市、収支かさ画メか域けれく当  
 援。けん概ザ法連安アキ、の団学サをを房しJバドも力業団とでの及びしと計ル長地ださ強り  
 支だ設タ)ン立るは、た初員小入数善文励)ンイ力電産員備地金化する必( )野際ね感いに  
 た明を(一タ、成政国月、ま最議ネ工徒改と激二ザ)るりや、議整当地強い(三矢たひと思騰  
 得証ン四(一タ、成政国月、ま最議ネ工徒改と激二ザ)るりや、議整当地強い(三矢たひと思騰



か、納税長則いを、一実多保な険。た入金に、べ免さ行。を、  
分たのを成原な料で十現「収い保るみ投年」とにレを小をる合援  
がま税障済がし険つ四が、徴て収い産も、無対象域払の援い場支。  
額。得保経と案保が大とはのし徴てをに人有た対地支度支ていなた。  
定る所会、こ提がた最こ局口入のし子のいのいを。の程的しな利え  
予いは社りるも人しらる務一投口入のし子の低額働入る費ル加にく有答  
給てで、か守党の。か取事ユか一投資者のが証「いあ療ト追う高の旨  
受しえてかを野くだ年を会億しユを業性酬保、なが医一のよがら」  
と供ンっが式は多標十ス議百税億税失出報低はい証、メ口い入れる  
額提ラが担方ムり目四ンた六の十の、抛の最員て保料方一な収こあ  
た報つた負課テよがのラま、度七口金非代の議い低信平ユれに、も  
っ情、しな賦ス、と行バ。は程百一助、。時へ力働最受十百さもら題  
払年が。常。シげこ現支た度口六ユ補等た役人ヤはのビ六二逐とが問  
支毎るる非る下るを収え制一、億の援し現いジて口レでや放者なう  
のはきあにあよをす間て答般ユは十へ支足「な。し一テ屋用ら両いい  
分でで者もに率に期しと一億険六族る補、きたとユ、部使かでてとい  
自ツ解分税れ金業う払ば」る百保百家す旨はでし業八税二の会きっいに  
にイ理半納恐税失よ支延うすし療六は対「員活だ本十民、ト社働払なり、  
とドも約とる、。るのに思入対医し税にる議生たや二住り一、共支れわが  
ご、式はうまりうえ料月と加に、対、性い山でて人百もたパど、をら終  
年が方者賄止ある払険九だが料が、対、女て舟けいい六でしアな方金け  
五る税税でがでだ支保年の数険い料まいしだつな月ル除なう他税受六  
以我がア欠じ注らつ、  
が不で等求性後  
援に肌容層要今計  
支」を内一重。た  
るな障と援がのるれ  
あ様保こ支助割あ入  
で多全るの援役に  
要る安あ国なする野  
概すので外的たこ視  
のとしの諸率果とも  
のめらも、効がたを  
査めらも、効がたを  
調始暮なたつ使しス  
るをと要まか大に  
よ助命重。的のたナ  
に援「にた果地新テ  
に団発の常き効現を  
員開民非で、識メ  
議府国、がつで認の  
本政力りかつ点も後  
のりあこしるて成



